

第13回 雪明・新潟眼科フォーラム

(日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業No.25182)

Yukiakari・Niigata Ophthalmology Forum

日時: 令和8年2月15日(日) 9:20~12:55

場所: 『朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター』2階 スノーホール

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号 TEL025-246-8400

専門医単位: 1単位

会費: 現地: 医師 3,000円 レジデント・視能訓練士: 1,000円

プログラム

Program

9:20~ 開会の挨拶 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授 赤木 忠道先生

【第一部】 座長: 新潟大学医歯学総合病院 眼科 講師 植木 智志先生

9:25~10:15 <<1>眼腫瘍>>
『私の眼腫瘍診療の歩みと現状について』
奈良県立医科大学眼科学教室 教授 加瀬 諭先生

10:15~11:05 <<2>近視>>
『近視抑制治療の実践と展望 - 個別最適化に向けた臨床の挑戦』
東邦大学医学部眼科学講座 講師 松村 沙衣子先生

11:05~11:15 (休憩)

【第二部】 座長: 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授 赤木 忠道先生

11:15~12:05 <<3>網膜>>
『黄斑部毛細血管拡張症(MacTel)の診断と治療アップデート』
琉球大学大学院医学研究科医学専攻眼科学講座 教授 古泉 英貴先生

12:05~12:55 <<4>近視／緑内障>>
『近視と緑内障』
愛知医科大学特任教授・眼科クリニックMiRAIクリニック長 三木 篤也先生

12:55~ 閉会の挨拶
新潟大学医歯学総合病院 眼科 講師 寺島 浩子先生

【共催】雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社 【後援】新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

第13回 Yukiakari・Niigata Ophthalmology Forum

雪明・新潟眼科フォーラム

日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業 No.25182



開催日時

令和8年 2月15日(日) 9:20~12:55

開催場所

「朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター」2階 スノーホール

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号 TEL025-246-8400

事務局

新潟大学大学院医歯学総合研究科 眼科学分野 事務局内

雪明・新潟眼科フォーラム事務局 TEL:025-227-2296 FAX:025-227-0785

〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

【共催】雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社 【後援】新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

第13回 雪明・新潟眼科フォーラム



ごあいさつ

新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授

赤木 忠道



多分野の御講演を1日で拝聴できる新潟最大規模の講演会である雪明・新潟眼科フォーラムも今回で13回目となりました。眼腫瘍、近視、黄斑疾患、緑内障について、超一流の豪華な演者に新潟の地で最新の話題を提供していただきます。近年多いオンラインやハイブリッドの講演はとても便利である一方、演者の熱量を近距離で感じられるのは現地開催ならではの大きなメリットです。今回は敢えて現地開催のみとし、大雪が降っても1演題目から聞き逃さないで済むよう、開始時間を例年より少し遅らせることにしました。本会開催に多大なるご支援をいただいております参天製薬様には、心より感謝申し上げます。聴講の先生方には、ぜひ、この贅沢な講演会をお楽しみいただき、一緒に盛り上げていただけますことを祈念しております。

私の眼腫瘍診療の歩みと現状について

奈良県立医科大学眼科学教室 教授 加瀬 諭 先生

略歴	1999年	鳥取大学医学部医学科 卒業	2007年	南カリフォルニア大学ドヒニー眼研究所 留学
	1999年	鳥取大学大学院医学系研究科 病理系専攻博士課程 入学	2010年	北海道大学病院眼科 医員
	2002年	鳥取大学医学部附属病院病理部 医員	2012年	手稲溪仁会病院眼科 主任医長
	2003年	北海道大学病院眼科 医員	2015年	北海道大学病院眼科 講師・財務医長
	2006年	札幌社会保険総合病院眼科 医員	2023年	北海道大学病院眼科 診療准教授
			2025年	奈良県立医科大学眼科 教授

眼腫瘍は結膜や涙腺・眼窩等の眼付属器に加え、眼内にも発生します。眼腫瘍はこれまで稀な疾患と考えられてきましたが、本邦における高齢化や紫外線量の増加、診断技術の向上等の影響により、悪性腫瘍の診断頻度が増えています。腫瘍は形態学的には隆起性病変を呈することが多いですが、その鑑別診断には炎症や変性疾患など多岐に渡ります。適切に診断をするためには、試験切除の可否を含め、幅広い疾患に関する基礎的知識と病態理解が必須となります。腫瘍切除術に際しては、眼付属器腫瘍では翼状片手術、眼瞼手術、眼内腫瘍に関しては水晶体再建術、硝子体手術の技量が必要になります。各腫瘍に対する切除術語の合併症への対策も講じなくてはなりません。本講演では演者のこれまでの経験に基づく様々な腫瘍とその関連疾患を提示して、専門医への紹介のタイミングを含め診断・治療の実際を体験していただけますと幸いです。併せて、奈良県立医科大学での眼腫瘍外来の立ち上げと今後の展望についてもご紹介します。

黄斑部毛細血管拡張症(MacTel)の診断と治療アップデート

琉球大学大学院医学研究科医学専攻眼科学講座 教授 古泉 英貴 先生

略歴	1998年	京都府立医科大学卒業、同眼科研修医
	2006年	Manhattan Eye, Ear and Throat Hospital研究員
	2009年	京都府立医科大学眼科 助教
	2012年	東京女子医科大学眼科 助教
	2016年	同 講師
	2017年	琉球大学眼科 教授
		現在に至る

黄斑部毛細血管拡張症(MacTel)は網膜専門医でなくても、日常臨床でしばしば遭遇する疾患です。「名前は聞いたことはある」という先生方は多いかもしれませんが、まとまった話を聞かれることはまずないのではないのでしょうか？残念ながら、今でも疾患概念は広く正確に理解されているとは言い難く、類似の所見を呈する網膜疾患と混同されているケースも多いと思います。最近、厚労省研究班より診療ガイドラインが発表されたこともあり、臨床医としてこの機会に押さえておきたい疾患です。本講演ではまず日常臨床においてMacTelを正確に診断するためのステップを、重要な鑑別診断を含め、様々な角度から考察します。その上で、現状で最も理にかなった治療戦略と、最新のホットピックスを紹介します。本講演が明日からの先生方の診療にお役に立てば幸いです。

近視抑制治療の実践と展望－個別最適化に向けた臨床の挑戦

東邦大学医学部眼科学講座 講師 松村 沙衣子 先生

略歴	2002年	東邦大学医療センター大森病院 入局	2020年	東邦大学医療センター大森病院 助教
	2004年	東邦大学大学院博士課程 入学	2023年	東邦大学医療センター大森病院 講師
	2008年	東邦大学医療センター大森病院 助教		
	2008年	済生会横浜市東部病院 眼科医長		
	2017年	シンガポール国立眼センター		
		クリニカルリサーチフェロー		

小児近視は近年、発症年齢の低年齢化とともに有病率が急速に上昇し、公衆衛生上の重要課題となっている。近視進行の機序として、脈絡膜の形態的・血行動態的变化と眼軸長の関係が注目されており、脈絡膜厚の変化は近視進行の早期指標として臨床的意義を持つことが報告されている。

日本では2025年4月に低濃度アトロピン点眼薬が国内承認され、同年8月には多焦点ソフトコンタクトレンズが薬事承認を取得した。さらに近視管理用眼鏡の導入も予定されており、近視抑制治療は新たな時代を迎えつつある。今後は年齢や屈折度数、そして生活スタイルを加味した個人最適化治療が求められる。本講演では近視進行予防治療に取り組む上で必要な背景や、日常診療に役立つ各治療法の最新アップデート、治療評価や長期管理のポイント、また新しく開発した近視管理アプリについても幅広く概説する。

近視と緑内障

愛知医科大学特任教授・眼科クリニックMIRAIクリニック長 三木 篤也 先生

略歴	1997年	大阪大学医学部医学科 卒業	学会活動	
	2006年	大阪大学大学院 卒業		日本緑内障学会評議員(2018年～)
	2009年	大阪大学医学部 助教		理事(2024年～)
	2012年	カリフォルニア大学サンディエゴ校 客員研究員		日本眼科学会評議員(2021年～)
	2016年	大阪大学医学部 講師		日本眼科AI学会評議員(2021年～)
	2020年	大阪大学医学部 寄附講座 准教授		
	2022年	愛知医科大学 特任教授・眼科クリニックMIRAIクリニック長		

近視は緑内障の主要な危険因子であり、近視に伴う緑内障の診断、治療は眼科医療にとって最も重要な課題の一つである。

しかし、近視眼では眼軸長の延長により視神経をはじめとした眼組織の変形が生じるため、緑内障の診断は困難である。これは、眼軸長延長に伴い生じる画像診断アーチファクトや、緑内障とは異なる近視性の視神経、網膜障害との鑑別が困難であることが原因である。本講演では、近視眼での画像診断アーチファクトや、近視性視神経症と緑内障の鑑別について解説する。

治療面では、これまで近視性視神経症、近視性緑内障の特異的な治療法はなかった。しかし、最近エビデンスのある近視神経抑制治療が数多く開発されてきた。我々の施設では、小児の近視進行抑制治療により、成人の緑内障発症を予防できるかについての研究を行っている。本講演ではこの研究の初期データと今後の展望についても議論したい。